

第3回東郷湖・未来創造会議 会議録

日 時 平成23年12月9日(金) 午後1時30分～5時10分
場 所 湯梨浜町役場 講堂

1. 開 会 進行：中本企画課長

こんにちは。それでは定刻になりましたので、只今より第3回東郷湖・未来創造会議を開催させていただきたいと思っております。レジュメに従いまして進めさせていただきたいと思っておりますが、このレジュメには書いておりませんが、全体会議が終わりましたら雑談という形で少し会を開かせていただきたいと思いますのでご協力をお願いいたします。

それでは、あいさつということで、会長よりごあいさついただければと思います。

2. 会長あいさつ：遠藤会長

こんにちは。前回の10月28日の時にはどうしてもこちらの会議に出席できなくて、実は韓国の国際ウォーキング大会に参加してきまして、ちょっと交流しているものですから、今年で8回目なんですかね。そちらの方に行っていて、どうしても会議に出席できなくて失礼いたしました。韓国に行った情報とか、内容とか、色々こちらの方にもフィードバックできる部分もあるんじゃないかと思っておりますので、また会議の途中でも参考になるようなことがありましたら、発表させていただきたいと思っております。



今回、これまで何回かの会議で大分煮詰まってきた、方向が出てきたんじゃないかと思っておりますけれども、本当に夢のある東郷湖周辺につくり上げていって、東郷湖に人が来ていただけるような、すばらしい東郷湖周辺にしていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様も忌憚のない協議の方をお願いできたらと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

(事務局：中本企画課長)

ありがとうございました。続きまして、町長の方からあいさつをお願いいたします。

3. 町長あいさつ：宮脇町長

どうも皆さんこんにちは。お忙しいところありがとうございます。8月4日にこの東郷湖・未来創造会議を設置しましてから4カ月が経ちました。分科会で皆さんに貴重な時間を割いていただいて、本当によいビジョンをつくっていただけたんじゃないかと思います。その結果が、本日のこの取りまとめにつながっているものだという具合に思っております。



私自身を振り返ってみますと、これは参加した私たちにとっても大きなプラスの要素をもたらしてくれたという具合に思っております。それは、福井先生からいただいた言葉、一つは「ワガコト化」。ワガコト化して考えよう、行動しようということがありますし、もう一つは、SWOT分析の概念で取り組んでいけばいいんだということがあります。偶々この間、みずほフィナンシャルグループの中間決算の報告書みたいなものを見ておりましたら、それが前段になっているんですね。今後の経営戦略みたいなものを考えるのに、強みを活かしてどうしよう、弱みをどうやって克服しよう、まさにその手法が使ってあって、今、私たちが学んだことがやっぱりこういうところでも使われているんだと思って、うれしくなって、身に付いたような気がいたしました。そういった意味でも、福井先生にたいへん感謝しているところでございます。

今日は、これからこれまでの議論を踏まえてまとめていただく訳なんですけれども、この計画をしっかりと来年度以降の予算に反映させたりして参りたいと思っています。本日は、お忙しいところありがとうございます。

(事務局：中本企画課長)

続きまして、福井先生の方からごあいさつと協議の進行をお願いしたいと思います。

4. 福井総合ファシリテーターあいさつ

どうも皆さんこんにちは。1カ月近く間が空きましたけれども、この間、さすがに町の企画はがんばるなと思いましたが、何か立派な取りまとめが進行しているようでございますので、今日はですね、皆さんに2回のワークショップという手法を使った会議、いわば未来創造のための企画バトルがあった訳ですけども、それを一回取りまとめていただきました。その取りまとめていただいたものを今日は発表していただいて、まず第一部はこの全体会議の中で、自分が考えていることは違うぞとか、何かそういう異論、反論、オブジェクションを少しやります。その中で、色々な形での修正すべきところは修正しようという議論をした後で、また3つの分科会に分かれまして、それぞれの分科会が今回取りまとめた全体の方向性を受けながら、自分たちの分科会の中でそれぞれの事業をどんな順序で動かしていくと効果的か、今までどちらかという企画をつくる時もバーンと企画を挙げますよね。それで挙げておしまいというね。これでは物事は動かない訳でございます、どれをどういう具合に動かしていくとスイッチが入って、次に連鎖反応が起きてくるのかという、そこところが重要なんです。



私がこの会議をやるに当たって、町長がすごいなと思ったのは、予算を付けるといったことです。普通、こんなことないですよ。やっぱりいいものは、ちゃんと予算を付けて実行するんだということがこの会議の非常に重要なところでありまして、そのためには全部出てきたアイデアに全部予算を付けるというのは、町の財政が破綻してしまう訳ですから、そういう人はいません。それで、皆さんがどこから転がし始めていくと連鎖反応が起きてく

るのかということをごちゃんと考えるとところが戦略でありまして、そういう手順を今日は考えていただきたいということでもあります。冒頭、町長も予算を付けますからということをおっしゃっていましたが、限りある予算という資源をどういう具合にうまく活用していくのかということをご今日は議論していただきたいと思います。そして、その議論の流れの中で、おそらくこの「東郷湖・未来創造会議」というのは、みんな漢字で硬いですよね。計画をつくる時には、あまりこう柔らかい形でやりすぎてしまうと何が何だかよく分からないので、一応、見取り図をつくるまでは「東郷湖・未来創造会議」ということでやっていくんですけれども、これを自分の仲間や隣のおじちゃんやおばちゃんや子どもたちや孫たちに、このプロジェクトはこんなだよということを行うためには、若干キャッチフレーズ的なものがあるんじゃないかなと思うんですね。つまり、ネーミング。この運動体というか、このプロジェクトのネーミングを考えていただきたいということで、今、全体会議を企画の皆さんの方から、我々の2回の会議の成果はこうだぞというものを出示していただいています。それに対して、異論、反論、オブジェクションをやります。それが終わったら、また3つの分科会に分かれて、それぞれが検討してきたプロジェクトをどんな順序でどういう具合に進めていったらいいのかということと、このプロジェクトのネーミング、キャッチフレーズを皆で考えて、もう一回発表していただくということでもあります。よろしいですか。何となく今日のミッションがお分かりいただけましたでしょうか。それが終わったら、お茶会をやるということでありまして、そんな流れになる訳であります。

実は昨日ですね、私は7時35分発の最終便に乗ろうと羽田空港の69Aというピアにいて飛行機に乗るのを待っていましたら、「福井先生」と声をかけられたんですよ。3チームから。Aチーム、Bチーム、Cチームとしか言いませんけれども、どういうチームかなと思っていましたら、その3チームというのは、実は2013年の都市緑化フェアとつとりの実施計画策定コンペの提案者が、今日朝から夕方までプレゼンテーションをするためらしいんですよ。そのために、東京からも3社乗り込んできて、応募して、今日プレゼンテーションを県庁でやっているらしいんですよ。そういう人たちが実施計画をこれからつくっていかうとしている。実施計画策定プロセスに県の方も入ろうとしているんですね。ですから、皆さんが今、考えている東郷湖というのは、ネットワーク会場になるんですよ。2013年都市緑化フェアとつとりのネットワーク会場になる。西の方は、とつとり花回廊、どちらかという湖山池を中心としたところがメイン会場になるらしいんですが、湖山池に負けてはいられないですね。2013年の10月、都市緑化フェアは1カ月間ありますからね。これも皆さんが順序を考えていくためには、いいタイムターゲットになるんじゃないでしょうかね。来年は11月にマンガサミット、まんが王国とつとりのキャンペーンがあります。これは5日間だそうですね。先程町長に聞いたんですけども、11月7日から11日まで5日間、米子のコンベンションセンターが主会場になって、そして、最後の10日、11日の2日間ぐらいが県内のネットワーク事業の連携というような形になると思うんですね。そういう意味で言うと5日間、その中の2日間というのは、湯梨浜町がネットワーク会場になる可能性もあるなということなので、これは県が推進する事業としてもう決まっている訳ですから、

そういうものをちょっと物事を進める順序の中に考えてもいいのかなという具合には思います。これは、皆さんがまた英知を絞って、いつも言っていますように言いつ放しではダメですよ。必ず、自分の発言はポストイットに書く。書いて皆に見せる。少し愚直なようですけれども、そうすることによって思考のプロセスとか、議論というのは噛み合ってくるんですよ。第1回目は皆さんが愚直にやってくれましたけれども、第2回目は少しそこがぬけているチームもあったかなという気がするので、やっぱりもう一回、今日はどこから始めていくかということも含めて、もう一回原点に戻って、自分の発言、自分の意見というのを書いて、見せて、貼って、そして整理をしていくというやり方を是非やっていただきたいなと思います。

それでは、第一部はこれまでの議論を企画の皆さんがまとめましたので、それを発表していただいて、それを聞いていただいて、ここは賛成、ここは反対、そこは異論というのを是非していただきたいなと思います。

5. 協議事項について

(事務局：林)

※詳細は別添プレゼン資料参照

失礼いたします。事務局、林でございます。先程町長の方からありましたけれども、8月4日、役場の職員、或いは県の職員さんにお世話になって以来、本日を迎えるまでに全体会は本日で3回目、それから分科会の方を何度か開催していただきました。当初は、財源のことは考えずに、アイデア、提言を募ることから始めまして、最終的には先程福井さんがおっしゃったように、財源のことを考えながらトータルコーディネートしていくことが必要であると思っております。皆さんの方に資料をお渡しさせていただいておりますが、一応、事務局の方で今までの議論を取りまとめておりまして、本日、皆さんのご意見を再度お伺いしたいと思っております。それでは、スライドの方で説明させていただきます。

まず、今までの議論の振り返りということも含めて、第1回会議からの経過を若干お話させていただきますと思います。こちらは、ごく一般的なものでして、観光という部分にとらわれず、交流人口の拡大がなかなか図れていないという現状の中で、湯梨浜町らしい地域資源をブラッシュアップしていきながら、湯梨浜町ならではのものをつくり上げていこうということで、その手法として東郷湖・未来創造会議を立ち上げさせていただきました。委員の皆さんから、日頃思っていたらっしゃることとか、東郷湖にまつわることで色々なアイデアを集約したいということで、この会議を立ち上げたものでございます。元々、東郷湖の活性化については、東郷湖活性化プロジェクト推進会議というものがございまして、そちらの方でも、東郷湖は地域の宝であると位置付けております。そういう東郷湖の潜在能力と言いますか、ポテンシャルを最大限活かすということで、湯梨浜町全体の魅力を高めるために、3つの分科会におきまして、それぞれの立場、視点で考えていただいたところでございます。まず第1回会議の時に、東郷湖のSWOT分析というものを皆さんで行いました。我々は近くにいるが故に、東郷湖の良さだとか、そういうものになかなか気付かないところではある

んですが、今一度、東郷湖の強みであるとか、弱みであるとか、色々出し合ってみると結構的確に意見が集約されたのかなと思っております。



東郷湖の強みの部分では、温泉資源があるとか、景観が良いとか、色々なご意見がありました。資料の真ん中に書いてあるものが、福井先生からご指導いただいたものでございます。今まで我々の中になかった視点ということもありまして、事務局としても新鮮に感じております。縄文海進が造った典型的な潟湖であること、山と森と里と海がつながっているということ、それから、やはり希少性が高いということが一番大きな強みなんじゃないかなということでした。

東郷湖の弱みの部分については、水が汚いとか、イメージが暗いだとかというような、特にイメージの部分が非常にあるということ。やはり一番の弱みというのは、共感する地域のストーリーが非常に弱いということ、色々な事柄、モノやコトにつながりが少ないということ、それから、地域の発展戦略が総合的に考案されていないということが最大の弱みであるということをご指導いただいたと思っております。

それでは、その弱みを克服するためにはどうしたらいいかということで、それぞれの分科会で色々検討いただきましたけれども、それらを整理する必要があるということがございました。官民連携、いわゆる共育・協働ということがキーワードとしてあったと思いますが、そういう体制づくりが必要であるということがありましたし、もっと東郷湖を活かしながら、参加体験価値を高める取り組みが必要であるということ、それから、女性をキーワードにしたプロジェクトが必要であるということで、東郷湖の弱みを克服していけるんじゃないかということがあったと思います。

東郷湖の強みをさらに発展させるということで、新3Kという言葉が前回の会議の中で福井先生の方からあったと思いますが、環境であるとか、健康であるとか、そういう時代の場や舞台にしていこうということ、それから、もっと自然景観ですとか、歴史文化を戦略的に活用していこうということ、また、オンリーワンの拠点形成をしていくことももちろんです

が、国や県を取り込んでいながら、総合的に取り組んでいったらどうだというようなことがあったと思います。

これらが、第1回会議の時に皆さんにご意見をいただいて、福井先生にご指導いただいた内容であったと思います。

次に挙げているものは、第1回会議の結果を踏まえた上で、各分科会の方で検討いただいたものです。社会資本整備チームにつきましては、東郷湖周辺のハード整備というところが視点になっております。自転車道と歩行者道の周回コースの建設、或いは花と緑豊かな湖畔づくりというテーマでご検討いただきました。観光・物産の活性化チームにつきましては、先程の東郷湖の強みでもありましたけれども、温泉資源を戦略的に活用していくということ、それから、地産地消システムを構築していくというテーマでご検討いただきました。イベント・コンテンツ開発チームについては、同様に参加体験価値の高いイベントを創り上げていくこと、それから、町民参加の共育・協働システムを構築するというところで、それぞれのチームで2つずつ大きなテーマを設けていただいて、皆さんから色々なご意見をいただいたところです。

前回の会議の時に、皆さんから70数項目の事業と申しますか、アイデアをいただきましたが、すべてを実施するという訳にはいきませんので、その中でプログラムの評価の視点が大事だという指導があったと思います。一つ目は、皆さんがご存知のとおり5W1Hの視点が大事だよということがありました。それから、先程ありました東郷湖のSWOT分析を活かしてアイデアを構造化することが大事だということ、それから、受益者は誰なのか、ターゲットは誰なのか、参加者は誰なのか、そういうターゲットになり得る部分をもう少し深く考えていくことが大事だということ、特にイベントについては、タイムスケジュールなり、場所性をセットアップしていくことが大事だということがありましたし、SWOT分析の結果でもありましたように、変わらない価値、持続可能な価値と時代が求める新しい価値をハイブリッドさせることが評価の大切な視点だということがありました。

これらのことを含めて、事務局なりにこの会議で提案された70数項目のご意見を一つの形に取りまとめる作業に入りました。それが、次のページからでございます。プロジェクトの方向性ということで、皆さんから色々なご意見をいただいたこと、それから、第1回会議の時に、町長の夢ということで町長が思っていることがありました。それから、福井先生の方にご指導いただいた幾つかのキーワードがありました。後は、事務局として感じる部分を若干補足させていただきながら、プロジェクトの方向性をまとめてみました。一番大きなことというのは、東郷湖の特殊性と申しますか、差別化できる部分を最大限活かしていく必要があるということで、こちらは福井先生の方からお話をいただいたものであると思っております。一つは、縄文海進が造った典型的な潟湖であること、それから、森里海が連環する豊かな自然環境があるということ、湖底から温泉が湧出する美しい湖であるということ、それから、天女伝説があるということ、これらが他の地域と差別化できる東郷湖のいわゆるポテンシャルの部分ではないかなという具合に思っております。それらを総合的に勘案しまして、東郷湖のシンボルを思い切って天女ということで進めたらどうかという具合に考

えているところでございます。湯梨浜町の目指す方向ということで、前回の会議の時にも天女の話の流れでお話がありました。天女も惚れたリゾート地なんだということ、女性が主人公になるリゾート地なんだというふうな方向性を示しながら、様々な事業を関連付けて展開していくという総合的なプロジェクトにしてはどうかと思っているところです。それで、天女ということ、今までのまちづくりの中でどう活かしてきたかということをお考えすると、なかなかしてこなかったということがあります。ですから、皆さんの議論の中でも懐疑的な部分があるということが色々なチームから出てきたという具合に思います。これは、一応、参考なんですけれども、鳥大の野津先生が監修されていらっしゃる文献の中に、日本の四大羽衣伝説伝承地という表記があります。そこから抜粋したものなんです、京都府の峰山町、今の京丹後市がありますし、皆さんがよくご存じの三保の松原があります。それから、滋賀県の余呉町、余呉湖という湖があるんですけれども、そこにも天女伝説があるということです。後は、倉吉市と旧東郷町ということで、この4つが四大羽衣伝説の伝承地だということが表記されています。色々な文献がありますのでこれがすべてということではないんですが、こういう形で大きく取り上げられるということは、我々の東郷湖を中心とした天女伝説というの全国的にみても非常に特化できるものではないかなという具合に考えております。

次に、これはチームということよりも、前回会議で福井先生の方からご指導いただいた点です。社会資本の整備ということからすると、単に道を整備すればよいということではなくて、道を整備することでどういう付帯効果を求めていくかということが大事だというお話がありました。それから、観光・物産の活性化の視点というのは、先程お話しさせていただいた部分を総合的に考えた時に、やはり新しい物語といいますか、全体的なストーリーがいるんじゃないかなということが一番大きなことだと思います。例としてお話をされたのが、天女でまちづくりを進めるとすると、二十世紀梨であるとか、イチゴ、ブドウなどたくさんありますけれども、そういうものは天女の恵みだとか、シジミは天女の涙だとか、東郷湖の花火は天女へのオマージュだとか、白鳥は天女の化身じゃないかというようなお話がありましたが、一つの例として天女と関連付けるような形での物語をつくっていくということが、特に観光・物産の視点では必要なかなと思っております。イベント・コンテンツについては、やはり今までのイベントの評価ということが大事だということと併せまして、これから開催するものについては、スケジュールをしっかりと考える、勘案するということが一つ大きな、大事な課題の部分ではないかなということがありました。ですから、仮に天女ということ、まちづくりを進めるということになれば、天女をテーマとしたイベントを創っていくということもそうですし、既存のイベントもそれに関連するような形で進めていくということも大きな選択肢ではないのかなと思っております。

そこで、具体的に展開するプロジェクトというような書き方をさせていただいておりますが、皆さんから提案された70数項目の事業を並べてみても、どういう具合に整理したらいいかということが分かりませんので、大きく10本の柱といいますか、10本の項目にまとめております。まとめた中でそれらに関連する事業がどういうものがあるかということで整理をさせていただきました。

一つ目は、天女イメージ創造プロジェクトということで、今まで天女を題材としたまちづくりをしてきていないということもありますので、まずこういうまちづくりをしていくというような普及、啓発をする意味でのイベントといえますか、催しが必要なんじゃないかと思えます。一つは、天女シンポジウムという書き方をさせていただいておりますが、町民の方、周辺に住んでいらっしゃる方に伝えるということが大事だろうと思っております。こちらは、自治総合センターの方にシンポジウムの助成申請をさせていただきました。本日結果が参りまして、不採択にはなったんですけれども、このように啓発するという部分は最初に必要なんじゃないかなと思っております。それから、イメージを創り上げていくという上で、イメージ戦略が非常に大事なんじゃないかなと思えます。こちらは、町長の夢の部分でもありましたけれども、イメージキャラクターをつくったりだとか、イメージソング、ノベルティーをつくってイメージ創造していくということが必要ではないかと思えます。一部、こちらに来ていらっしゃる委員の皆さん以外にも、非常にこの取り組みに関心を持ってくださっている方がありまして、役場の職員からの提案ということもここには含まれております。

それから、社会資本整備チームでも色々ご議論いただきました。東郷湖周辺の整備がまず必要だろうということがあります。こちらの方は、まずは東郷湖周辺に歩道を整備したいという強い思いがあったんじゃないかなという具合に思えますし、その他、自転車専用レーンの整備であるとか、湖上の遊歩道であるとか、自然散策道だとか、色々な選択肢があったんじゃないかと思えます。全体的な活性化を図っていく上で、ハード部分ではこの部分が非常に大事なことはないかと思っております。前回、社会資本整備チームの中でのお話がありましたが、先程の自然散策道は東郷湖の北側につくったらどうかという意見がありましたし、湖周をずっと回ってもらうウォーキングコースをつくとすれば、南側に湖の上を歩くような歩道をつくってはどうかということがありました。藤津から宮内あたりまで歩道がないということで、県の方にお世話になって何とか歩道を付けたいというのが、このプロジェクトの中では一番大きな要素だったんじゃないかなと思えます。それから、観光案内板の整備ネットワーク化ということで、こちらの方は、名所であるとか、景観スポットなどを改めて整理、点検し、観光案内板として整備したらどうかというお話がありまして、モデルコースをつくるということを前提としながら、そういう表示であるとか、距離表示だとかということが必要だというご意見もあったと思えます。また、観光案内板については、実施主体、つくられた主体が違うということがあって、案内がバラバラということがあります。そういうことをもう一度整理をする必要があるんじゃないかと思っております。それから、エリアスポットの整備ということで、ウォーキングコースをつくることに関連するんですけども、例えばトイレの問題であるとか、駐車場の問題であるとか、グラウンド・ゴルフをもっと周辺でできるような環境にならないかということがあったと思えますし、天女なりがイメージできるようなモニュメントを含めた整備をしたらどうかというようなご意見があったかと思えます。

次に、ウォーキングリゾートプロジェクト、こちらは県の方が使われている表現ではありますが、ウォーキングをするにあたっての整備が必要だということがあったかと思

ます。これは、既存の施設を使いながらウォーキングステーションの機能をつくっていくということ、それから、全体として6つぐらいのステーションをつくるとすれば、足りない部分があるだろうということで、新たにステーションを整備したらどうかというご意見があったと思います。それがこちらの図ですけれども、燕趙園のスペースを一部活用して、全体として6つぐらいのステーションをつくりながら、お客さんにそれぞれのコースを楽しんでいただいたらどうかというものです。それから、サービスメニューをつくっていく必要があるだろうということがあったと思います。色々なコースづくりもそうなんですけれども、湯梨浜町ならではのオリジナルプランをつくったらどうかということがありまして、健康づくりという視点でウォーキングと絡めて整備していく必要があるんじゃないかというご意見もあったかと思えます。また、ウォーキング、ノルディックウォーキングを湖周の道の整備と併せて進めていこうと思った時に、タイミングだとか、スケジュールを勘案しながら、こうした大会も定期的に実施していくことも必要なんじゃないかということもあったかと思えます。

それから、道の整備の関係で、花と緑ということがもう一つのテーマだったと思いますが、今一度図面を広げながら、ここには何が、あそこには何がという議論があったかと思えます。そういう花や緑にスポットを当てたような取り組みをしたらどうかというものでございます。資料に書いておりますが、咲く時期がバラバラで、一度に咲くということはないですけれども、例えば夏の時期にヒマワリが見れるようなゾーンをつくったらどうかとか、芝桜であるとか、梅であるとか、既存のものを含めて季節感が感じられるようなコースづくりをしたらどうかというご意見もあったかと思えます。それから、ちょっとした優しさといいますか、今ある看板というのは、花が咲いていなくても常時あるということで季節感が感じられないというご意見がありました。住民の皆さんのご参画といいますか、そういうことも含めてなんですが、ちょっとした優しさが感じられるような演出をしたらどうかということもあったかと思えます。

それから、住民参加型共育・協働プロジェクトということで、ボランティアガイドを養成したらどうかということ、それと併せまして、湯梨浜町の自然であるとか、歴史であるとか、そういうことをもう一度見つめ直すということも含めて、湯梨浜検定なりを実施してはどうかというご意見があったかと思えます。お客様を迎えるということにつきまして、町民の皆さんにご協力いただきながら、また、ご指導いただきながら、迎え入れる体制をつくったらどうかというもので取りまとめております。

続きまして、森里海連環プロジェクトと書いてありますが、いわゆるツーリズムということ意識した取り組みも必要なんじゃないかと思っております。特に、森里海という考え方については、福井先生にお話しいただくまで全く意識していなかったことですので、例えば地理コースであるとか、歴史・文化コースであるとか、環境保全コースであるとか、そういう視点でツーリズムを感じられるようなコースづくりをしたらどうかということもありますし、環境ということがこれから非常に大事になってくるということもありましたので、例えばエコツアーであるとか、自然環境学習であるとか、そういうことに視点を当てるという

ことも考えてはどうかという思いでございます。

それから、ものづくりという表現をしておりますけれども、観光・物産チームの中では、新商品の開発というご意見が非常に多かったんじゃないかなと思います。今、産業振興課の方でも、観光協会の方でも、一生懸命取り組んでいらっしゃると思いますので、それらを継続していくということと、或いは新たな発想ということもあるでしょうけれども、オリジナル新商品の開発というものに取り組んでみてはどうかというものでございます。ただ、方向性として天女ということで物事を進めていくということになれば、一連の流れができるということもありますので、そういう視点をこの部分に織り交ぜながら取り組んではどうかというものでございます。それから、商品の魅力アップということで、例えば観光・物産チームの議論の中にありましたように、お客さんに興味を持ってもらえるような仕組み、オマケが付いているとか、おみくじが付いているとか、そういう楽しさを演出するというのも一つの選択肢だということもありますし、もう一つは、地域資源をブランド化していくということがこれからは大切なんじゃないかということでございます。例えば東郷湖のシジミであるとか、フナをブランド化してはどうかというご意見もあったと思います。そういう視点も大事であると思っております。

それから、新3K創出プロジェクトとしております。環境ですとか、健康ですとか、経験ですとか、そういうものを大きな視点、キーワードとして取り組みができないかということですね。例えばカヌーの体験ということがご意見としてありましたけれども、スポーツのプログラムをつくることや農業体験であるとか、田舎暮らし体験であるとか、そういうプログラムをつくってみてはどうかということ、女性をターゲットとした体験プログラムをつくったらどうかということがあったかと思います。特に、環境という部分については、先程お話をさせていただきましたが、東郷湖活性化プロジェクトという事業も併せて進めておりますので、そちらとの連携を図りながら相乗効果を上げるということも考えていく必要があると思っております。

それから、サービス機能増強プロジェクトということで、これは特に、観光客や来訪者の受け地としての考え方を整理する必要があるのかなということで、旅館を中心に色々ご協力をいただきたいという思いでございます。天女ということで進めるということであれば、例えばお部屋を天女の間とか、お風呂は天女の湯ということで、色々な付帯効果を求めるようなことをやってみたらどうかということがあります。それから、ウォーキング関連ということにもなるでしょうけれども、今、足湯が6箇所ありますので、もっとネットワーク化するような視点も大切なんじゃないかということがあります。それから、温泉地の魅力アップということで、サービスプランであるとか、エステプランであるとか、特色のある旅館づくり、温泉地づくりの視点も大切なんじゃないかということがありました。地産地消システムの強化ということで、こちらは観光・物産チームでご意見があったんですが、例えば泊で水揚げされるカキが町内で出回らないということにビックリされていた方もあったかと思いますが、地元で獲れたものを地元の町民の方に提供できるようなシステムの構築をしていく必要があるのではないかと、今までできていない部分がありますので、そういうことを考え

ていく必要があるんじゃないかということをございます。それから、温泉エネルギーの関係につきましましては、温泉熱を活用した発電システムの構築ということについて、県の方にお世話になりながら町の方でも一部進めております。バイナリー発電ですとか、地域熱供給ですとか、そういう視点で地域にある温泉資源を活用していくという考え方も今後必要になってくるのかなと思っております。また、情報発信ツールの整備ということで、こちらは歩道の整備ができたり、ウォーキングコースができていくということに付帯することですが、二次的な要素として、マップですとか、いわゆる地域の伝説本ですとか、そういうものもウォーキングと併せて整備していけば、さらに効果があるんじゃないかということをございます。

最後ですけれども、魅力あるイベント創造プロジェクトということで、イベント・コンテンツ開発チームにつきましましては、本当に数多くのイベントのアイデアを出していただきました。しかしながら、これらをすべて進めていくということは、なかなか難しい側面もあります。やはりこの部分につきましましては、今一度タイムスケジュールであるとか、場所性であるとか、実施する上での着地点というものを整理しながら、最終的に進めていく必要があろうかと思ひます。ある側面では、行政主導のイベントが多すぎるというご意見もありますので、そういうことも整理しながら、進めていく必要があるのではないかとございます。福井先生の方から、イベントを実施する上で場所性であるとか、タイムスケジュールが必要だということがありました。まずは、マンガサミットが来年の11月に開催されるということで、マンガサミットを活かすということが直近のタイミングなのかなと思っております。具体的な各論部分については、これから検討していく必要があると思ひますが、マンガサミットの関連イベントということで、例えば天女のイラストを公募したらどうかというお話がありましたし、天女のコスプレをしたらどうか、凧揚げをしたらどうかというご意見もありました。そういうことを整理しながら、来年の11月に合わせて何らかの関連イベントをしたらどうかという思ひでございます。それから、再来年には全国都市緑化フェアがあります。幸いにも、東郷湖羽合臨海公園がサテライト会場になっているということもありますので、そういう場所性であるとか、タイムスケジュールを活かしながら、燕趙園周辺を中心にして全体的な天女に関するイベントをしたらどうかというものでございます。天女に関する色々な体験ですとか、そこに日頃から取り組んでいらっしやるミュージカルを当て込んだりですとか、そういうものを具体的に実施しながら、タイミングを活かしたらどうかということをございます。この全国都市緑化フェアにつきましましては、平成25年9月21日から11月10日までの51日間あるということですので、その中で色々な形で展開してはどうかということがあります。イメージ創造プロジェクトと重複するところもあるんですが、その時に天女サミットを併設するというございます。天女によるまちづくりを盛り上げていくための取り組みが必要ではないかと思ひております。

そして、湖周の完全整備を活かすということで、湖周すべてに歩道ができるということからも、一つの大きなウォーキングコースができるということになりますので、そのタイミングを目掛けて、ウォーキングを中心としたイベントを開催してはどうかというものでございます。

少々強引なところもあったかと思いますが、今までの会議の中で、福井先生にご指導いただいたキーワードになる部分をプロジェクトの大項目に入れております。皆さんの方でこの後ご議論いただく中で、現実的にできること、できないことについての整理をしていただきながら、再度検証していただければと思っております。



具体的に進めていくに当たってのタイムスケジュールのイメージをつくっております。このスライドにはないんですが、資料の最後に付けさせていただきます。個別事業のスケジュールまではしてはしてませんが、10本のプロジェクトを進める中で、このような時間軸を持って取り組んではどうかというものでございます。

湖周の整備については、県の担当者の方がどういうふうに思われるか分かりませんが、また、社会資本整備チームの中でも2年間でできるというお話もあったかと思いますが、一応、5年ということの一つの区切りとさせていただきました。その5年の中で、これらの事業を計画的に、戦略的に進めていったらどうかというものでございます。ですから、特に制度設計、システム構築が必要なものについては、その後の研修などを含めて時間がかかるということがありますので、おおよそ3年ぐらいを目途にそれを構築していくようなスケジュールはどうかという具合に思いますし、イベントにつきましては、それぞれのタイムスケジュールといいますか、何らかの活用できる大きな催しがある時に実施してはどうかと思っております。5年間の内にこのプロジェクトを戦略的に進めていけば、少なからず今以上の魅力ができるんじゃないかと思っております。

長々とお話しさせていただきましたが、一応、事務局の方で今までの議論を集約させていただきましたので、皆さんの方で再度、ご意見、ご提言をいただけたらと思っております。以上でございます。

(福井総合ファシリテーター)

どうもありがとうございました。最後の方は、タイムスケジュールを5年間計画というこ

とで、行政はやはり予算をベースにした形で、着実にやるとなると中長期戦略という形で考えていかないとなかなかできないですよ。そんなに潤沢に予算がある訳ではないですから、そういう部分で言うと5年間ぐらいかなということなんです。5年は長すぎるんじゃないかなというふうに思う人もいると思うんですよ。そういう意味で、これは天の恵みかどうか分かりませんが、先程紹介がありましたけれども、平成25年、2013年に都市緑化フェアが51日間あるんですよ。1カ月半あるんですよ。これは、サテライト会場という位置付けなので、メインの湖山池を主会場とする事業に対して、なかなかぶつけられないかもしれないけれども、町民挙げて色々な関係者も含めた形で、何か準備できれば非常に大きなきっかけづくりになるんじゃないかと思っておりますので、平成25年というのはかなり色々なことを仕掛けていく大きな舞台にできるんじゃないかと思っておりますし、予算を機動的に動かすということもできるんじゃないかなと私は個人的には思いましたけれども、これも皆さんに議論をしていただきたいなと思っております。それから天女、これは町長の方から最初に天女をテーマにできないかというお話が皆さんにあったと思うんですけども、東アジア的なことで言うと、要するに飛天も含めて、飛天というのは天を飛ぶと書きますね。莫高窟という、有名なシルクロードの敦煌というところに莫高窟というところがありますね。そこに飛天の壁画がある訳ですけども、それが日本の色々な画家、アーティストのイメージを刺激して、今、私が関わっているところで言うと、法然上人800年記念事業の年なんです。知恩院に行きますと日本最大の三門がありますね。要するにそこを通ると極楽浄土に行けると。その三門の一番上に極楽浄土を表現するような部屋がありまして、そこに今入れるんですけども、その中にも飛天、そして、麒麟の絵が描かれていますね。この麒麟の絵はキリンビールの原画になったものですね。徳川三代でつくられた三門なんですけれども、元禄の少し手前の文化、芸術で、その中には麒麟、飛天が描かれていますね。日本人の持っている一種の宗教観、或いは東アジアに共通する文化の中に、こういう麒麟とか、飛天とか、そういうものがあるんですよ。現代、我々はそれほど感じない訳ですけども、お隣の倉吉市の打吹山はどちらかという天女が空に帰ってしまったために、お母さん帰ってきてくれと、妻よ帰ってきてくれというので、残された夫と子どもたちが雅楽をやって、笛や太鼓をたたいて、天に帰ったお母さんと呼び戻そうとしたことで打吹山なんですよ。では、その天女はどうやってここに来たんだという実は東郷湖の美しい存在に惚れて、ついに湯浴みをしたということで羽衣石、つまり羽衣を掛けた石というところになりました。本当は東郷湖でなかったんじゃないかという人もいるかもしれませんが、一応、この地域というものの持っている一つの物語というものを伝えられる非常にいいお話なんじゃないかと思うんですよ。そういうものを全体として考えていくと、例えば凧というのは天と地を結ぶ一つのコミュニケーションのメディアなんですよ。凧というのはですね。それから、白鳥とか、鶴というのは、だいたい飛天の化身ということになりますね。ちょっと調子に乗って、シジミも天に上ったお母さん、天女が残してきた子どもたちがかわいくて泣いた時にこぼれ落ちた涙がシジミになったと。これは、私の勝手な言い方なんです。是非ミュージカルにも採用していただきたいなと思っておりますけれども、実は青森県の十三湖ではカラスの涙というふうに言います

ね。シジミをね。これは、津波で湖が全部やられてしまった時に、カラスが昔の美しい青森を思い浮かべて泣いたと。それがシジミになったというのが分かりますね。青森のカラスの涙に対してこちらは天女の涙でいくんだぞと例えばそんなことですね。



つつい先走っているようなところもございますけれども、そういうふうな形で単にその思いを並べていくだけではなくて、それがすべて東郷湖という歴史的な事件、縄文海進によって生まれた美しい潟湖、これを皆で守っていかうじゃないかと。そしてそれは、今滝からずっとつながっている、或いは東郷川を含めて森と川と里と海が全部つながっているという、これは森里海連環学という京都大学の田中 克先生が、日本の持っている海の豊かさ、日本の国土の豊かさというのは森里海の連環であるということで、里海プロジェクト、里山プロジェクト、こういうふうなものを提唱されていますね。これが、日本が世界に発信した里山プロジェクトになっている訳ですね。ですから、そういうことの一歩の先進的リーダーになるという自覚、誇り、こういうものを立てていただけるとまとまっていくんじゃないかなという気がします。私の個人的な妄想でしたけれども、一応、そんな感じに受け取りました。皆さんの方で、自分が意見を言ったけれどもなかなかこういうところは反映されていないんじゃないかと、色々問題があるぞとか、賛成意見とかありましたら、ちょっと手を挙げていただけますでしょうか。

(佐々木委員)

いずれのプロジェクトも非常に魅力的で、是非とも具体化するとか、実現していただきたいと思うんですけども、その中で天女イメージ創造プロジェクトというのは、これは個人的な気持ちで言いたいのは、あくまでも全部のプロジェクトで、天女という形ですべて象徴して、すべて集約するような形というのは、先程福井先生の方からお話がありましたけど、何かちょっと違和感があるなという、これは私の個人的な意見です。皆さんがそのあたりをどういう具合に考えているか。やはりこれは天女でいくべきだと、天女でシンボライズして、それで一体となって進めていくべきだというふうに考えるのか。ちょっと違和感があると言いましたのは、私は文化財保護委員という立場から、町内に歴史文化財がたくさんあ

りますし、貴重なものが残っておりますし、そういうものの活動のイメージが、天女があまりにも前面に出てきますと薄らいでくるかなという感じがします。それから、別の話なんですけど、縄文海進が造った典型的な潟湖・東郷池、そういうフレーズの中で、典型的な潟湖というのは私もそう思います。縄文海進が造ったという形容詞句は、例えば橋津の海食崖、これは明らかに縄文海進が造ったものなんですけど、東郷池の場合は、どちらかというところと造ったというよりは、あそこはそもそも土地が低かったと。東郷池になったのは、東郷池に入るそれぞれの色々な川がありますけど、そういう川の堆積物によって海側から塞がれて東郷池になったと。ですから、ボーリング調査をすると、確かに縄文海進の時に海の方から運ばれてきた砂も溜まっているという部分がありますけど、決して縄文海進のために湖になったというイメージはないと思います。縄文海進の後に、縄文海退というのがありましたけど、縄文海退によって砂が海の方に持ち出されて、それで湖になったという、そういうイメージではないという具合に思いますので、そのあたりの形容詞句はここにもかなり詳しい方がおられますので、それでいいんだとかというあたりはしっかりおさえておく必要があるだろうと思います。

(福井総合ファシリテーター)

今おっしゃったのは、海の浸食作用によって掘られた訳ではなくて、要するに河川の浸食作用ですね。一般的な河川の浸食作用によって造られたんだという、しかし、縄文海進の痕跡は砂も含めた形で残っているということで、縄文海進が造ったというのは縄文海進時代の名残を明確に持っているというような形じゃないでしょうかね。学術的にはどういうふうに言うのかということについては、おっしゃるように、しっかりこのあたりのところはおさえていくべきだろうなと思います。それから、何でもかんでも天女にする必要はないと思います。しかし、コミュニケーション上、私はこんなにすばらしいというふうに、10個の魅力がありますという言い方もありますし、ある一つの物語から入りながら、下照姫命の話だとか、色々なお姫様の話だとか、或いは地域の持っている歴史、文化資源などについて説明をしていくきっかけ、そういうあいさつ代わりになるものという形で考えたらどうかなという具合に思うんですけども、そういう意味で何でもかんでも天女、飛天を付ければいいということではないと私も思いますので、それはそうかなと思います。

(宮脇町長)

私も今、お話をうかがってしまして、一つはどういうスローガンでということになりますけれども、例えば天女の降る里、ふるというのは降りてくる、里山の里という、湯梨浜町はそんな町ですよと紹介する時にそういう題名を付けたとすれば、個々には湯梨浜にとって大切な歴史上の文化財、そういうものもあります。そういうところの案内を出す時に、町章の代わりに天女のマークが入って説明書きがあるというようなイメージで、そのものを関連付けたりということではなくて、要するに湯梨浜全体がこのコンセプトでまちづくりをやっているんですよ、そんないい町なんですよということを表す原点みたいなもので活用できたらと思っているところでございます。實際上、その他にどんな活用があり得るかということ、例えばこの間の災害で、羽衣石の最後のカーブのところにある橋が流れ落ちてまして、大字で付

けてありまして中村橋というんです。それを架け替えするんですけれども、せっかく羽衣石の山の入り口のところの橋だから、ちょっと名前を考えようかといって、建設水道課の職員と考えているところなんですけども、そういうような活用ですとか、それからもう一つ、東郷総合運動公園のサッカー場を人工芝にしてから、1年経たずに1万6、7千人の利用があるんです。大会などでたくさん使ってくれて。それで、東郷総合運動公園の名前を考えようということはずっと提案していただいているんです。その時に、私があるのは、サッカーで子どもたちがたくさん集まってくるのなら、例えばサッカー場を飛天コートと名付けてみてもいいし、或いは天女パークと名付けてもいいかもしれないし、そういう活用も考えているところです。

それから、他のことについてもお話しさせてください。ウオーキングのことに関しては、ノルディックウオークなども今、NPOの方で一生懸命やっただいて、ここをメッカにということもありますので、それと連携してやっていきたいと思います。それから、森里海の連環プロジェクトにつきましては、にほんの里100選に選ばれた別所、国信、宇野の名水百選、石脇の快水浴場百選、そこは百選ツアーでも面白いかなと思います。それから、質問なんですけれども、新3Kというのは、基本的には観光、環境、健康ですよね。それをやる手法として経験があるということで、ちょっとこの表記を福井先生に確かめておこうと思ひましてお聞きしました。

(福井総合ファシリテーター)

環境、観光、健康、これは国で言っている3Kですね。ですから、そちらに訂正していただいてもいいんじゃないかと思いますが、いずれにしてもどのプロジェクトも体験型である、経験型であるということが非常に重要であるということで、そこはそういう形で整理していただいたらどうかと思います。それから、天女の地図の中に、沖縄県の宜野湾市、確か第3回目の天女サミットの開催地ですよね。ですから、沖縄県の宜野湾市も飛天のイメージを具体的にされているところなので、少し修正を加えてもいいんじゃないかと思ひます。

(遠藤会長)

失礼いたします。どのプロジェクトも見渡しながらなんですけれども、受益者というところで、観光客というところをターゲットとした時に、自分に置き換えた時のことを考えると、栃木とか、茨城とか、よく知らないところにお金を払って行くのかなということまで考えて、どういう内容にしたら本当にお金を払って来る価値があるのかというところで、かなり絞って考えた内容にしていかないといけないのかなと。確か、福井先生の以前の講演録を見せていただいたら、アジア圏内というのはターゲットにした方がいいということで、プランをつくる時に天女のリゾートの中に、世界一とか、インパクトがかなり強烈なものがないと、お金を払って来る価値があるということがこれから具体化する時に必要なんじゃないかなと考えたりしました。それから、財源のところも、ある意味交付金であるとか、補助金であるとか、手出しも考えて計画してありますけれども、民間資本なども積極的にアプローチして引っ張ってくるようなことも、今後考えてはどうかなと思ひました。

(福井総合ファシリテーター)

共育・協働システムという分野というのは、やっぱり民間の力が相当必要になると。行政の方の公共施策で予算が付いたから始めましょうというプロジェクトがあるんですけども、例えば民間の観光事業者の皆さんたちが自力で始めて、それに補助金が付けばもっと良くなると思うんですね。何かそういう形の産官学、或いは共育・協働プロジェクトというのが、これからは大事なんじゃないかと思うんですね。全部役所の予算頼みにしてしまうと何年かかるか分からないという、そうなる则とんどん先送りされてしまうという施策が今、非常に多いんですよ。ですから、民間が考えて、これはいいなと思ったこと、効果がでるものは民間が始めながら、例えばそれが地域の中の候補政策だったらすぐにやれるんだけども、京都や東京でアウトバウンドする時の候補政策になるとなかなか自分たちの資金が乗っからないから一緒にやろうよとか、そういうことであればかなり効果的なものが出てくると思うんですね。ですから、今おっしゃいましたような形で、民間がとにかく積極的にやるという、特にこれからは民間活力創造に予算が付くという時代になります。予算があるからプロジェクトが始まるのではなくて、民間の人たちが汗を流して始めたものに対して行政は応援する。皆に予算を振り分けるという時代ではなくなるということなので、やはりそういう意味で言うと、民間がスタートさせるというプロジェクトは結構尊いんですよ。そのあたりのところのリスクを取るというかね。そういう形で、会長、是非始めていただきたいというのがいくつかありますよね。私もいくつか感じているものがあるんですよ。そういうものを動かしていくというのは大事だと思います。

(大庭委員)

私自体が湯梨浜町の住民になってまだ2年足らずなんです。ですから、まだまだ外から見る目の方が強い訳です。私は仕事柄、全国各地をずっと転々として回っていたものですから、今、湯梨浜町に住まわせていただいてすばらしいところだと思っています。来る人来る人、会う人会う人に言っています。先日もある人にお会いする時間があったんですが、全国奈良をはじめ青森とかにですね、まほろばという言葉がありまして、これは美しい、すばらしい、楽しいという古来の言葉です。まほろばの里をつくって、まほろばの里湯梨浜、本当に感じました。福井先生もおっしゃるように、山、池、海、全部一望もできますし、私が今、活動しているさくら工芸品工房というところは、東郷湖を臨む小高い、すばらしいロケーションのところですよ。私自身もそこで毎日活動させていただいてまして、本当に幸せだと思います。ただ、あまりにも地元の住民の方がこのすばらしさを、あまりにもすばらしいばかりに忘れていきますね。私はそう思います。返って町外の方が、観光客の方もよく言ってくれますけども、皆さんがそうおっしゃいます。ですから、こういうプロジェクトをされて、活性化をしようとするのはとてもすばらしいことだと思います。でも、事実、今もすばらしいところなんです。それを再認識した方がいいと思いますね。

(福井総合ファシリテーター)

今おっしゃいましたように、まほろばの「ま」というのは接頭語なんですよ。万葉言葉で言うとも。美しいという、そういう接頭語ですよ。おっしゃるように、私も田後の出身なん

ですけれども、世界中結構歩いているんですが、本当にすごいなと思っているんですね。そういうものをうまく活かしていく時に、1980年代から1990年代の中旬ぐらいまで、狂乱のごとくりゾート開発に遭わなくてよかったなと思っていまして、誰も手を付けなかったという部分もあったかもしれないし、投資されなかったということもあるかもしれませんが、あの狂乱のリゾートブームに乗り遅れたということはよかったなという具合に思います。そういう意味で、やっぱり非常に深い地域だなと。先程百選のお話が出てきましたけれども、百選がいくつか取れるという、そういう場所ですね。ですから、そういう意味では、皆さんも自信を持っていただいているんじゃないのかなと思います。自分の故郷だから誉めているという訳ではなくて、外を見ているからそんな感じがしますね。

その他、どうでしょうか。(特になし)

それでは、いくつか修正はしなきゃいけないというところがありますので、その修正をするという形にいたしますが、第1回、第2回の皆さんのワーキングで議論したことと、今いただいた意見を反映させていきたいなと思いますけれども、一応、この皆でつくった案を拍手で最後占めていただきたいと思います。(拍手多数)

それでは、ここから先は分科会という形で、もう一回、それぞれの社会資本整備チーム、観光・物産チーム、イベント・コンテンツチームに分かれていただいて、冒頭申し上げましたように、どれから始めるか、10のプロジェクトにだいたい整理をされるよということと、そこにぶら下がっている色々なアイデアの中で、どういう動かし方をしていったらいいのかということについて、それぞれの分科会でこういう順序でやっていこう、そこにタイムスケジュールがちゃんと入ってくるといいかなと思いますね。具体的に言うと、マンガサミットがあるよとか、或いは都市緑化フェアがあるよというようなことですね。社会資本整備チームでは、2年で周回コースができるぞという話がありましたけれども、町の財政や県立公園ですから調整はいると思うんですけれども、そのあたりのことを含めて、是非皆さんの分科会ではこういうふうな順序でプロジェクトを進めていったらどうなんだということを議論してください。そして、東郷湖・未来創造会議という形でこのプロジェクトのネーミングを付けましたけれども、何か皆に分かりやすい言葉で、そういうキャッチフレーズというか、或いはネーミングというか、それも考えていただいて、一つに絞る必要はないと思いますけれども、それを皆で共有してプレゼンテーションをしていただけたらと思います。どうでしょうか。熱い議論を進めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



社会資本整備チーム／議論の様子



観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム／議論の様子



イベント・コンテンツ開発チーム／議論の様子



全体の様子

(福井総合ファシリテーター)

皆さんよろしいですか。発表を聞いてもらいますので、それぞれのチームの時には自分のチームに戻るけれども、まず社会資本整備チームが発表しますので、このテーブルを取り囲むように皆さん集まってください。それでは、発表していただきます。

(遠藤会長)

遠藤です。よろしく申し上げます。社会資本チームの方で、今後のスケジュール的なもの話を始めました。最初に県土整備局の方から、道路の整備は5年計画で計画していますということがありましたので、本当は来年1年でやってほしいと思っていたんですが、予算などのことがありまして、来年度から予算要求としては5年かけて藤津の歩道がないところの整備を行っていただくということで、5年後ぐらいにウォーキング、サイクリングができるコースとしての整備がしていただけるということです。



社会資本整備チーム検討結果発表

(福井総合ファシリテーター)

一番の難所ですか、そこは。要するに予算的にそこに投入しないといけないですか。ちょっとフォローしていただけますか。

(倉本委員)

県土整備局の倉本です。一応、私どもの方としては、歩道のない区間がだいたい1kmあるんですけども、ここの区間を来年度測量設計いたしまして、全体事業費を2億5千万ぐらいを考えております。その区間を4年かけて、平成24年から28年の間に整備をしたいというふうに考えております。ただ、ここは桜の名所になっておりまして、道路の池側の方に桜がたくさん植わっているもので、この桜をなるべく残しつつ、影響がないような工事をどういうふうにコストとのバランスをとりながら進めていくのかというのが一番の悩みでございまして、そのあたりをまた地元の関係者の方々の理解を得ながら進めていきたいと思っ

ております。



(福井総合ファシリテーター)

今の話は歩道ですよね。自転車の方はどうなっていますか。

(倉本委員)

自転車の方は実施主体としては考えておりませんで、この創造会議の要望とか、プランを受けて、どのように動くかというのを持ち帰って検討していきたいと思っています。

(福井総合ファシリテーター)

プレッシャーを受け付けるという発言だという具合に理解しましたけれども。

(遠藤会長)

続きまして、花と緑の空間プロジェクトに関してですが、これはできることから、来年度からでも着手していただきたいということを考えております。目標としては、都市緑化フェアが平成25年9月ぐらいからですかね。この段階でできているような形でいただきたいと。ただ、進めるにあたっては、やっぱり誰が花を管理していくのかというところが出てくると思うので、全体の管理者というのを、たくさんの方が来て、宿泊されたり、お金が落ちるとか、そういうメリットがある方も含めて、また、地元の管理していただけるような方も含めて、管理のあり方をまず決めないといけないだろうなと思います。さらに、前回、ここにはどういう花がいいということが出ていましたけども、鳥取県中、日本中、アジサイが咲く時はどこもアジサイが咲きますし、コスモスが咲く時どこもコスモスが咲くので、ここにしかないコスモスとか、ここにしかないアジサイとか、ここに来ないといけないという意味のあるものを種類も選定して、調査して、植えていきたいなと思います。基金については、色々な民間の基金であるとか、そういうものも当たりながら、探してはどうかという意見が出ました。



社会資本整備チーム検討結果

(福井総合ファシリテーター)

アジサイについては、確か今年、NHKの趣味の園芸の4月号を飾った掛川花鳥園のアジサイは、世界初の新種だそうです。それで、毎年1品種ずつ、そこは開発することができるらしいんですね。まず聞きましたら、そういうことで何か新しい品種開発というのは、世界的な競争に入っているんですって。だからもう今、たいへんな花の開発競争が起きているということなので、そういう意味では、その舞台、実用化の舞台にどうぞとか言ってやると面白いかもしれませんね。それから、燕趙園がセンターとなっていますよね。センターということをやっと補足していただだけませんか。

(遠藤会長)

そこは今回、あまり詳しく詰めていないんですけど、ウォーキングをする上でどうしてもトイレの場所とか、駐車場とか、自動販売機とか、コースの案内であるとか、全体のイメージがつかめるものとか、そういう情報提供のセンターとして何箇所か必要だろうなということで挙げています。

(福井総合ファシリテーター)

せっかくですから、各関係者というか、補足しようということがありますか。逆に、質問はありますか。

(佐々木委員)

緑化フェアというと花だけではなくて、樹木もあっていいと思うんですけど、例えばこの前から話の出ました桜を植えるとか、ケヤキを植えるとか、そういう考えはなかったのですか。

(遠藤会長)

途中の話の中でも、桜とか、花木ですね。そういったものもあってもいいんじゃないかという話がありました。

(佐々木委員)

我々のイベントチームで話がありましたのは、東郷荘絵図の絡みで、橋津川をもう少し上がっていったところを、それからもう一つは、廣熊路に、桜小学校の前のとおりをケヤキ並木にするとか、花は一年で枯れてしまいますけど、木はしばらくあるものだと思いますし、それから、地元としては、東郷荘絵図は一体なんだいやという話がありまして、木を植えてアピールすると、地元の人に昔の歴史を知ってもらおうということもあります。

(福井総合ファシリテーター)

ここの南谷のところの旧河川には、何の木も植わっていないんですか。これは、南谷地区のテーマとしてやったらどうですかね。

(佐々木委員)

今の橋津川には、ネムノキが植わっていますが、ネムノキはほとんど枯れた状態になっていて、桜並木でつなぐと本当にいい名所になると思います。

(福井総合ファシリテーター)

これもあれですよ。水辺は水位が関係する植生というのがあるので、高く盛土をしながらやっていくとか、色々な工夫がいると思いますが、今、おっしゃっているような形で、花だけではなくて花木とか、木とか、そういうようなものの計画も重要だなと思います。それでは、後はキャッチフレーズですか。

(遠藤会長)

後一つ、ウォーキングリゾートに関しては、できるだけ早い展開で、温泉施設などを利用しながら進めていきたいと思っています。その他で出ていましたのは、ウォーキングリゾートの中で、歩いた後に、ある意味、全体として高級志向というか、富裕層が来て、ここなら来てもいいよというリラクゼーション、スパリラクゼーションというか、エステみたいな高級な

ものをどこかにつくって、何日間かそこで滞在されて、食を楽しんで、温泉を楽しんでいただくような施設もターゲットとして狙ってもいいんじゃないかなということが出ていました。

(福井総合ファシリテーター)

後、日帰り温泉、要するにウオーキングになると日帰りの人が増えますよね。日帰り温泉を受け入れる仕組みというのは、東郷温泉とか、はわい温泉というのは今、どうなんですか。

(立木委員)

一応、ウオーキングの基地に龍鳳閣がなっています。一周回られた人は入りに来てくださいというようなことはやっています。

(福井総合ファシリテーター)

今、伊豆、箱根なんかもね、日帰りに対応できているところが伸びていますよね。要するに、伝統的な夕食を食べてください、朝ご飯を食べてくださいという宿泊型のものについては、かなり下がってきているところもありますよね。だから、逆に言えば、1泊1万5千円、夕食、朝食、2食付いてね。というよりも、3千円払ってもいいから、お昼が付いて、日帰りできるんだったらという意外と効率がいいかも分からないという、何かそういう商品開発も一緒にならないと生きてこないんじゃないかなという部分はありますよね。どうでしょうか。

(遠藤会長)

色々なターゲットを絞ってメニューをつくった方がいいんじゃないかなと思っています。キャッチフレーズの方ですけども、天女の贈りものプロジェクト、東郷湖キラキラプラン、東郷湖湯の町プロジェクト、美しい場所、美場（ビバ）天女プロジェクト、天女の憩いプロジェクト、天女と鶴のたわむれ、天女の飛翔、天女パラダイスプロジェクト、天女のふるさとプロジェクト、天女の潤いプロジェクト、天女イメージ創造プロジェクト、これらが挙がってきました。

(福井総合ファシリテーター)

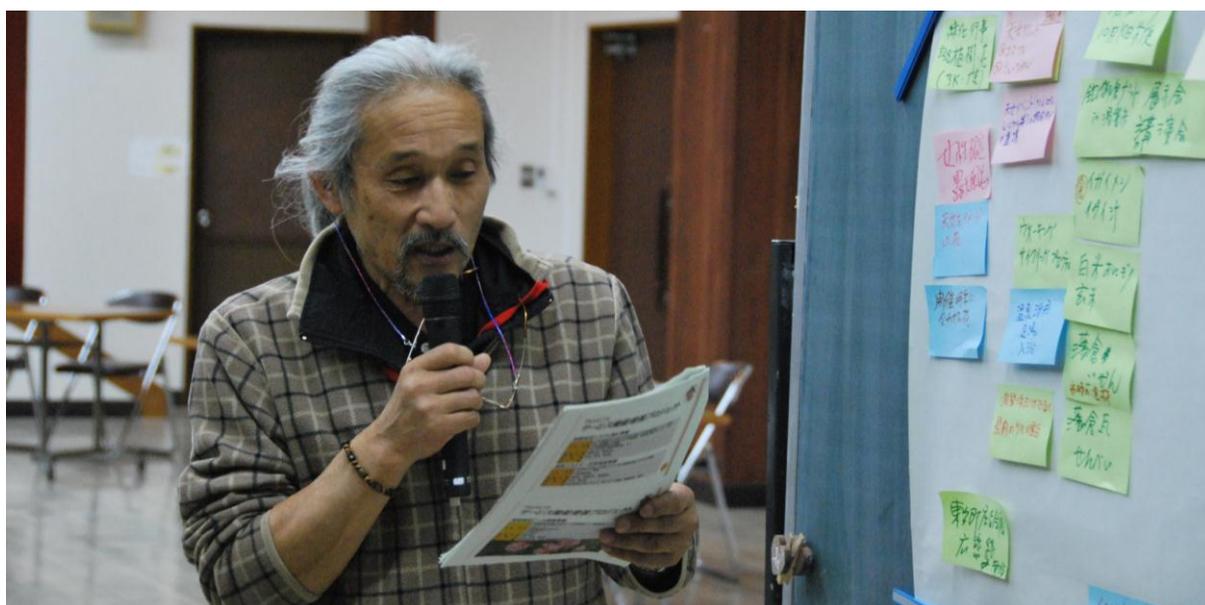
東郷湖湯の町プロジェクトなんて、湯の町エレジーみたいな、何か昭和40年代という感じがしますが、色々な形のものが出ていますが、サイクルロードについては、今、東京は警視庁も意を決して、元々自転車というのは、車道の左端、道路の左端を走るんですよという、道路交通法としては車両規定ですよ。ですから、一般道路の左端を自転車専用道路として、東京で言うとブルーレーンにしたりしていますよね。そういう意味で言うと、自転車専用道路をつくらうとすると、歩道と自転車を共用させる部分と、それから一般道路、自動車道路とサイクルロードを共用させる部分の設計、ある部分では自転車だけが通っているものも並行してつくるか、何かそういう応用問題が必要になってきますね。そういうようなこともあって、私はまずウオーキングをがんばるということと、自転車の部分も考えるということが必要んじゃないかと思えますけども、それとやっぱり温泉資源がうまくブレンドされるというか、カップリングされることが必須んじゃないかと思うんですね。ウオーキングはどこでもできますから。ただここはそういう物語があると同時に、要するに温

泉資源とカップリングさせるということが、ここのウオーキングの、言ってしまえば一番大きな売りになるというところがあるので、温泉旅館さんたちもかなりがんばってもらわないといけないという感じがします。それでは、社会資本整備チームの発表を終わりたいと思いますけれども、拍手で。(拍手)

どうもありがとうございました。今度は、イベントチームのところに移動してください。それでは、発表をお願いします。

(小林委員)

それでは、発表させていただきます。小林と申します。イベントチームが検討したのは、ある程度イベントのタイムスケジュールを決めて、いつ、どのようなことをしながら進めていったらいいかということについて話をしました。まず、一番目先にありますマンガサミットに向かってイベントをするのにはどういうイベントをしたらいいかということで、天女に関するキャラクターというか、天女のイラストを公募して、その中から選んで展示していくということをやって、マンガサミットのお客さんをこの湯梨浜に連れてくるということで話をしました。



イベント・コンテンツ開発チーム検討結果発表

第一に、公募するには、誰を対象に、どのようにしたらいいかということで、町民を対象にということもあったんですけども、やはり全国から、全世界からマンガの関係者が来られるのであれば、全国的に公募をした方がいいんじゃないかと。その中でも、町民の公募も併せてやっていくということで、公募は町民以外にも、全国というものがあまして、全国を対象に公募をしていくと。それから、イラストの展示はマンガサミットに合わせて、マンガサミットに行かれて、米子から倉吉や北栄に来られる人を逆につかまえて、サミットが終わる日程を後に伸ばしたらどうかと。サミットに来られた方にこういうものがありますと会場で色々アピールして、温泉もありますよ、宿泊もいいですよ、食べ物もありますよという

ことを主会場で発表していただいて、来ていただくということで、期間は11月7日から10日まであるんですけども、湯梨浜のイベント期間は11日の日曜日まで伸ばして実施すると。その時に表彰を行って、表彰の賞品には宿泊券とか、湯梨浜町の郷土のお土産の詰め合わせをあげると。それも、継続的に、1年間なら1年間を、その時期だけではなくに1年間を通じたものを渡すことによって、ずっとつながりが伸びていくんじゃないかという具合に話ことができました。それで、投票のやり方、誰を選ぶかということなんですが、選ぶのは町民の方がいいんじゃないかということで、町報で投票用紙を配布したり、作品は前もって受け取っておりますので、公民館など身近に見ていただけるようなやり方がいいんじゃないかということでした。それから、マンガサミットの時に、コスプレ大会、天女のコスプレも併せて表彰するようにしたら、天女というもののイメージを発信できるんじゃないかという話になりました。

もう一つは、都市緑化フェアに併せてするイベントなんですけども、色々ありまして、先程の話にも出ていましたけれども、花とか、植樹、新3Kの歴史に併せたものというような話も出ました。それで、やはり都市緑化フェアについては、町を見てもらう、緑などがある訳ですから、歴史の中での緑化フェアのイベントをした方がいいんじゃないかということで、これまでも出ておりましたけれども、藩倉まつりとか、全国御倉サミットとか、イベント期間の中の1日、2日に入れてもらって、来ていただく。イベントの中で食べものと併せて、来ていただいて楽しんでもらうという、その時には、御倉サミットですから新米のおにぎりとか、藩倉御膳というようなものを新しく湯梨浜でつくっていただいて、それを食していただく。せんべいというお話もありますし、期間が50数日間と長いですから、ウォーキングとか、サイクリングプログラムを組み入れながら、歴史のあるところを回ってもらって、足湯なども整備されておれば、そこでゆっくり休んでいただくということです。それから、来年はマンガサミットで、再来年が都市緑化フェアですから、しかも同じような時期ですから、併せて天女サミットを開催して、コスプレとか、ミュージカルをしながら、天女というイメージも、森里海、その中の緑化、植樹というものについて、一緒になってサミットをしたらどうかということです。

それから、開催時期に合わせた花、湯梨浜町にしかないような花、天女をイメージした花を選んで、天女の花ですよということで売り出していけばどうかという話も出ました。

それから、ずっとやっている水郷祭なんですけれども、これは時期も決まっているんですが、天女へのオマージュ、こういうサブタイトルを付けて天女を売り込んで、天女とつながった、高いところに上げて喜んでもらうというようなイメージを持ちながら、これは継続的にやっていく必要があると思います。

今お話しした中でも、天女を入れて、天女のイメージを町民にも、全国にも発信して、それらが継続的につながっていくようにしていきたいということです。



イベント・コンテンツ開発チーム検討結果

(福井総合ファシリテーター)

発表していただきましたけれども、簡単に言うと、来年のマンガサミットは期間も短いから、どちらかというキャラクターとか、そういう発信をする時に、町民参加だけでなく全国の人に参加してもらおうと。これね、公募雑誌があるんですよ。湯梨浜町がこういうコンセプトで募集していますということが出せるんですよ。公募雑誌に。そうすると全国の人たちが応募してきますよね。それを誰が選ぶかとか、どうやって選ぶかとか、選ばれたものをどういうふうに決めて、どういうふうに発表するのかというタイミングにこのマンガサミットをうまく使えるといいかなということですね。こちらの都市緑化フェアは、2013年の方は51日あるから、長期的に集客戦略ということも考えて、色々なあの手この手を打とうよということですね。何か皆さんの方で補足はありますか。

(堀内委員)

このプロジェクトの名前についてお願いします。

(小林委員)

すいません。色々とお出たんですけれども、天女の湯浴みの里プロジェクトという、こちらの女性の方が結構女性だけの温泉だとかと言われたんですけれども、僕たちも仲間に入れてくれと言ったら断られたんですが、女性がきれいであれば男性は必ず寄ってくるので、そういうことで進めていったらどうかという話が出ました。

(福井総合ファシリテーター)

この女性限定露天風呂というのはどういうことでしょうか。混浴ではないということですか。今、混浴はあるんですか。(ないの声) ないですよ。これは、混浴願望ではなくて、女性に対してちゃんとした環境を特別に提供するというイメージをつくった方がいいという意味ですね。

それから、郷土の資源、地産地消をうまく使って、ちゃんとした食の売り込みを考えようということですね。そういうことになると、要するに、先程言いましたけれども、マンガサミットの方は、むしろ広報戦略的に打ち上げ花火みたいなものを作って、都市緑化フェアの時には、50日間を集客戦略、町民も参加して盛り上げるという作戦ですね。そういう具合に考えてよろしいでしょうか。(よろしいですの声)

何か質問はありますか。それでは、イベントチームの発表はこれで終わります。拍手。

(拍手)

どうもありがとうございました。それでは今度は、観光・物産チームのところに移動していただけますでしょうか。何となく広がりすぎていますので、近くに集まっていただけませんか。それでは、観光・物産チームの発表をお願いします。

(宮川委員)

観光・物産チームでは、話がほとんどまとまらなくて、残り3分で一生懸命貼りましたので、この表はあんまり意味があるかと言ったらないような感じではあるんですけども、このような意見が出ていて、こういう流れで進めるしかないんじゃないかなというお話がありましたので、それを説明させていただきます。



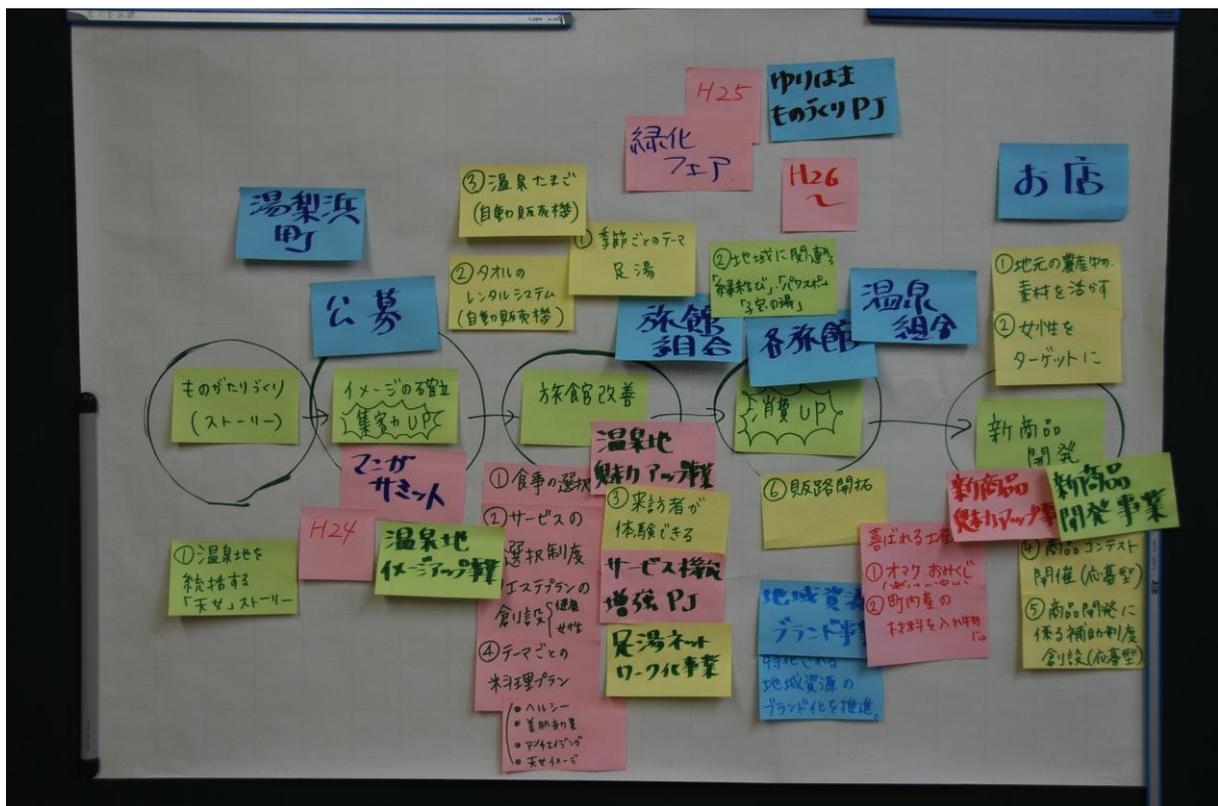
観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム検討結果発表

まず、観光・物産チームの特性として、実施主体という観点で言いますと、すべてが町という訳ではなくて、町というのあれば、旅館組合とか、各旅館とか、温泉組合もあれば、

お菓子なり、料理なりをつくっているお店もありますし、色々な実施主体があるものですから、なかなか簡単ではないなということもあります。今、行政的な観点から言えば、開発であるとか、整理であるというのは、やりやすいと思うんですけども、殊、流通とか、消費とかという部分になかなか行政はタッチしにくい部分がありますので、順番としては町なりができる部分から始めていって、だんだん同心円状に広げていくような感じで進めていくというのが一つの流れでないかなという、実施主体による観点から、町が始めてだんだん進んでいくというようなことが基本路線になるんじゃないかなということでした。それで、話の中に出てきた意見で、例えば地産地消の新メニューということで、スイーツとかということもありましたけれども、例えば野花豊後の梅だとか、イチゴだとか、梨だとかというものを活かすとしても、旬のものでありますから、その時に収穫して、そのどのエッセンスを抽出して、どういうふうに保存して、どういうふうにお菓子に活かすのかという話になったら、例えば二十世紀梨を使ったお菓子を開発したいと今の12月に思ったとしてもできない訳ですよ。そういうことを含めて考えれば、そういうことはもう少し長期的なスパンで考えなくてはいけないということがありました。それから、旅館に来られた時のウェルカムな何かドリンクであるとか、お菓子であるとかというものにつきましても、旅館でそういうものを使ってもらえるという流通の部分、システムの部分というのを構築していかないと難しいと。また、そういうお菓子を湯梨浜町内につくってくださるような会社はないと思うんですけども、どこかに委託してつくるにしても千からですねとか、一万からですねというロットが、すぐつくって、それが腐るまでにさばけるかというとなかなか難しい問題ですから、まず集客ありきで、その集客の時に合わせて、例えば大きなイベントがあつて、緑化フェアなりがあつて、たくさん集客があるという時に、湯梨浜的な湯梨浜ならではのお菓子が出したいねという機運をまず盛り上げないと何か一つお願いしますという話にはならないでしょうということがありました。

それで、観光・物産チームが考えた流れとしましては、こう転がしていったらうまく進むんじゃないかなという最初は、イメージの確立、物語、ストーリーづくり、これは天女のキャラクターを確立するとかということに集約されると思うんですけども、まずそういう部分から湯梨浜町というものを発信していく、かわいいキャラクターでも、その付属するストーリーであっても、そういうものを発信することによって注目して下さったり、活力が出てくると。まず、その第一弾として、先程のチームからもありましたけれども、マンガサミットなりのタイミングを活かすと。例えば、マンガサミットに併せて募集するのか、何か募集して出来上がったキャラクターなどをどこかでマンガにしてもらって、出来合いのものをイベントの時にぶつけるのか、ぶつけ方はいくつか考え方があろうと思うんですけども、例えばイラストを募集するという先程の案ですと、開催の少し前までの期限で募集して、選考して、佳作だとか、入賞だとか、特選だとかを含めて展示するようなイベントを、そこで何か配れるものがあれば一番いいんでしょうけれども、そういうものを平成24年の11月ぐらいにぶつけていくと。その中で、湯梨浜町が最低限注目してもらえるような何らかの展開、全国ニュースになるようなものをできればしたいということがまずあります。そして、先程

福井先生がまとめていらっしやいましたけれども、一過性のもので、ちょっとアドバ
ルーンを上げて注目してもらおうワンステップと、それから、全国から都市緑化フェアなど
たくさんの方が長期的にいらっしやるといふ頃を見計らって、旅館の、または温泉の魅力ア
ップというものの次のステップとしてやっていくと。そうすることによって、足湯とか色々
あるんですけども、そこで消費されるものが必要な訳で、それは従来通りのものであつた
ら百年一律な訳ですから、その時を目指してこういうものを開発していくと。それには、
町なりが補助金を出すとかということがあるかもしれませんが、具体的には町が動い
てできるものではありませんから、これのための一つのワンステップでこういうことがあり
ましたと。注目も浴びています、是非、ついでにはこの時を目指して町全体でもてなしする体
制を整えたいんですけどいふことで協力していただくような流れのサイクルをつくると。
それで、消費力アップのための環境整備が整えば、そこで提供するための商品というものを
開発していただくというお膳立てができるんじゃないかなというように感じて、まず町、そ
れから、こういう組織化された組合など、最後に個別の末端で消費されるものをつくれる
お店とか、或いは農産物をつくっておられる農家の方だとか、農協だとか、そういうものに
合わせた商品を開発していただくと。こういう転がして膨らませていく、同心円状に広がっ
ていくという流れで展開されるのかなというまとめでした。



観光・物産の活性化、顧客満足度開発チーム検討結果

それから、キャッチフレーズということがありましたけれども、町長が天女の降る里とい
う、降るは降臨するの降るだとかと言われて、あれがあまりにも頭にこびりつきすぎて、あ

れを聞いてしまったら他のいいアイデアが出なかったんですけれども、そんなことでした。個人的には、今、言いながら思いついたんですけれども、天女というより、例えば羽衣なんて言ったら、羽合の羽とか、ふるさとのさとも郷土の郷と書いたら東郷の郷も入るなどか思ったんですけれど、そういうことを言い出すと泊が入らんとか何とかということが出てきてしまうので。そういうことでした。

(福井総合ファシリテーター)

何か付け加えたいということがありますか。(特になし)

先程は、平成24年のマンガサミットの時に打ち上げをやって、そして、平成25年の都市緑化フェアは割とロングレンジなので、集客対策を含めた形で多角的にやっついこうよという、そういうイベントチームの考え方が示されましたけれども、この場合は、要するにまず湯梨浜町がイメージアップ戦略等を含めた形で投資をしてくれと。こういうことですね。それに応じた形で、それぞれ新しいコンテンツに基づいた形で、旅館等々がメニュー改善を図っていくと。ソフト開発をしていくと。サービス充実をさせていくということですね。そういう部分はかなり重視しながら、それに今度はそれぞれの色々な事業者が新製品開発だとか、そういうような形に結び付けていくと。こういう一連の流れがいいんじゃないかというお話ですよ。ということで、町の責任は重いぞということですか。つまり、最初のイントロダクションをうまくやってくれよということになりますよね。だから、どういう戦略にしても、そこどころに火をつけるとそれに対して民間もフォローアップしていくという、そういう流れの部分をお示しになったんじゃないかと思いますけれども、それはかなり理にかなっていると思うんですが、現実にもう旅館組合とか、或いは個別事業者の中で、発想として動いているものがありますよね。例えば、天女ミュージカルみたいなものをやろうよという、これはもちろん町が助成をしていくという流れの中で出てきていると思いますけれども、そういう発想がもう出始めていますから、ベクトル合わせですよ。これはね。だから、町のコーディネーター力が非常に重要だけれども、やる気のある、先行しているところにどんどんバックアップしていくという、そういう考え方が必要なんじゃないかなと思うんですが、凧揚げをやるよという先程の話ですけれども、いつ頃からやりたいという何かたくらみがありましたらちょっと発表していただけないでしょうか。

(大庭委員)

たくらみというようなものではございませんけれども、今月の17日に湯梨浜町内の泊公民館の方で凧をつくって、子どもたちを集めて揚げようことありまして、私の方もそれに協賛することになっていまして、時期的に子どもたちにとって寒さが厳しいので、来年5月のこどもの日の前後に、これはもう少し大きなスケジュールで凧揚げをやる予定になっています。凧自体は300~500集まっておりますので、それも中国、それから、アメリカのカイトとか、日本の和凧も3、4種類、かなりのものを集めておりますので、それはもう私の方の独自でやるものですから、町長もちょっと予算を心配してくれましたけど、今回は私の方でやるんだという思いがあります。

(福井総合ファシリテーター)

逆に言うと、そういう動きをコーディネートして、バックアップすると。あれはあの人がただ好きでやっているだけだからと他が静観としているというね。これがだいたい多いんですよ。あの人は変わっているとかね。それはおかしいんですよ。変わったことをやっている人を応援するとか、いいんじゃないかというね。そういう文化がないとなかなかこういうものがうまくいかないなという気がするんですね。

(大庭委員)

ただ、ありがたいことに、凧というのは結構同好者が多いんですよ。

(福井総合ファシリテーター)

それはいいですね。

(大庭委員)

ですから、長野の方に飛天隊という凧揚げの会がありまして、これはもう外国まで行って凧を揚げる人たちです。

(福井総合ファシリテーター)

そういう人たちを呼び込む訳ですね。

(大庭委員)

いつでも応援に来るということで、天女凧を持って応援に来るからと常に交流しています。それと後、この間鳥取砂丘で凧揚げがあったんです。その時に13県から、日本凧の会というのがありまして、そこの皆さんが鳥取砂丘で凧を揚げた訳です。湯梨浜でも考えていると言ったら、全部来るよと。いつでも声をかけてくれということを言われていますので。ただ、私は小さくてもいいから、毎年やろうと思っています。

(福井総合ファシリテーター)

ちょっと拍手ですよ。(拍手)

結局、そういうことから始まっていくんじゃないかなと思うんですよ。そうすると、凧を通じて全国の同好会の人が出てきたら、先程の話じゃないですけど、本当にまほろばだと。こんなにいいところないじゃないかという形でリピーターになってくれたり、スピーカーになってくれたりする訳ですから、そこの意味で言うと、観光、交流条件というのは、色々な矢が放てると思うんですよ。

先程アジサイのお話をしましたけど、そこの社長にお話ししましたら、新品種については、ネーミングも全く考えていないので、例えば飛天のアジサイとか付けられるそうです。ですから、つまり今の時代の中で、やっぱりそういう思い込みをお互いに連携し合って、自分はこちらだけということではなくて、つなげていくという、そういうことが非常に重要なんじゃないかなと思います。

(大庭委員)

私の方の凧揚げは、羽衣石天女凧揚げ隊といいます。

(福井総合ファシリテーター)

羽衣石天女凧揚げ隊ですね。分かりました。そういう流れを含めて、ステーキホルダーと

言うんですけれども、色々なステークホルダーが一緒になってやっていくということが必要なんじゃないかというふうに思います。

それでは、発表どうもありがとうございました。(拍手)

お約束は4時半終了ということなんですが、だいたいこれで3回目のワークショップも終わりというか、全体が終わりですよね。とりあえず今年の流れということになると思うんですが、私も色々なところで色々なこういう会議をやりながら、活力創造のプログラム開発と一緒にお手伝いしてきているんですが、どれぐらいの出来具合かなと言うと、たいへんよくできているんじゃないかなと思います。本当にこれにチャレンジされて、一つでも二つでも実現されていくと非常に大きな力になっていくんじゃないかなと思いますけども、是非、もう既に県の方では、来年度に実施設計をやるというものも出てきている訳ですから、そういうものを町長と一緒に頑張ってうまくマージしていくとか、マネージメントしていくとか、そういうフロントに皆さん立っていただいて進めていけば、必ず実現できるという具合に思いますし、日本の中でもかなりいい線にいくという具合に私は思いますので、是非、がんばっていただきたいなと思います。ちょっと中途半端なコーディネーターだったかもしれませんが、一応、全体をこれで終わりたいと思います。最後の締めを町長にやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。(拍手)

(宮脇町長)

どうもお疲れ様でした。スケジュールから、中身から、色々と本当に丁寧にご指導いただきましてありがとうございました。最初のところで少しという話がありましたが、なるべくやりたいと思っております。倉吉市は確かに、20年前から打吹天女を活用してやっておられますけれども、限定的なんです。湯梨浜町は、ある程度の、色々な広がりと言いますか、至るところでという形で、ドンと前面に出したいという気持ちを持っておりまして、最初にちょっとたくらんだシンポジウムは、宝くじの県の枠の関係で後れを取ってダメになりましたけれども、色々なところで情報を捉まえながら、実現したいと思っております。皆さんの貴重な提案に、そして、福井さんのファシリテーターとしての役割に大感謝申し上げて、お礼のあいさつにします。共にがんばりましょう。(拍手)

(事務局：中本企画課長)

どうもありがとうございました。ではこの後、最初言いましたように、少し雑談というか、最後の打ち上げというか、まだ任期は2年ということでお願いさせていただいておりますので、またお願いするというところもあるかと思っておりますけれども、今回の締めという形で、今からちょっとお茶などで雑談の時間を取りたいと思いますので、よろしくお願ひします。



皆さんお疲れ様でした／ありがとうございました

～雑談～

(福井総合ファシリテーター)

東郷湖羽合臨海公園が、都市緑化フェアのサテライト会場になっているということで、実は私は個人的に言いたいことがあります。その時に、天女楽市楽園という事業を起こしてはどうかと思っています。楽市楽園の楽市のベースキャンプは道の駅です。イメージ的にね。楽園は燕趙園です。もう一つは、周辺の湖岸を、10月ですから、今、皆さんが考えているコスモスプランをつくったらどうかと思うんですね。一般的には入場料はとらない。燕趙園に入る時にはもちろんお金を払う。コスモスの大きなワイルドフラワーのガーデニングのそばで、皆で凧揚げをするというような形で、天女楽市楽園というのを具体的につくったらどうか。それで、はわい温泉と東郷温泉の旅館も、それぞれが楽市楽園を考える。うちはこのものをつくろうという形で、出展参加する訳ですよ。ホテルとか、旅館がね。自分たちのデザインとか、イメージを考えるという形で、50日間ね。湖山池に行くよりも、サテライト会場の東郷湖の方が面白そうだというようなものを考えてみたいなど。小さくてもね。今から湖山池を掘っても、温泉が出ないと思うんですよ。それから、色々な特産品等を考えてもなかなかないと思うんですよ。鳥取大学はあるかもしれないけれども。そういう意味で、やっぱりこういうものは競争ですからね。巨大な会場はできるかもしれないけれども、魅力ある東郷湖の方が面白いみたいだね。その拠点をつくったらどうかということで、プロジェクトの仮名称を天女楽市楽園という形で、楽市楽座をもっているんですけども。そ

うすると、今ある資源を全部うまく活用して、うまく連結させてやっていけるんじゃないかなと思うんですね。ですから、全体を通じてネーミングを天女にしないではいけないということでもないですし、やっぱり具体的にプロジェクトを動かしていく時に、それぞれの市の名前を考えるとということでもいいんじゃないかなと思うんですが、今日、皆さんにキャッチフレーズをたくさん出していただいていますけど、それも一度事務局の方に引き取っていただいて、ネーミングをどういうふうな形で今後付けていくのかということを経営的に考えていったらいいんじゃないかなと思うんですね。ということで、来年、再来年、ホップ、ステップ、ジャンプが5年後ということでしたが、場合によっては、2013年のやり様によっては、1年前倒しという作戦もありますよね。これから、知事にどうやってプレゼンテーションするかということが町長も必要だと思いますし、私も東京なんですけど、とりあえず応援も含めて、我々の同級生でもふるさと納税みたいな形でやろうよということで、同窓会で盛り上がった時期があるんですが、ちょうど合併前でうまくいかなかったんですが、これからは、高校の同級生とか、そういうところも含めて、東郷湖の花火については、ふるさと納税を皆でやろうかみたいなね。そんなことを考えていますので、是非、一緒にがんばっていきたいと思いますので、がんばりましょう。どうもありがとうございました。

(事務局：中本企画課長)

どうもありがとうございました。今後は皆さんに出していただきました計画を、事務局の方も含めまして具現化していくことが大切じゃないかなと思っているところでございます。キャッチフレーズにつきましては、福井さんが言われたとおり、事務局等で考えながら皆さんの方に報告していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

それでは最後に、もう一度福井さんの方に皆さんの盛大な拍手でお礼を申し上げたいと思ひます。(拍手、拍手、拍手・・・)

どうもありがとうございました。(拍手、拍手、拍手・・・)